

取産香遺

Vol.81

「久保神社神幸絵図」 神仏混合の絵巻



▲久保神社神幸絵図

久保区は、市の南東部に位置し、かつて渡辺操（存軒）の私塾「無逸塾」（小見川高校の前身）があったことでも知られています。

久保神社は、その「無逸塾」跡地裏手の高台に鎮座しています。高皇産靈神を祭神とし、長徳元年（995）に陰陽師の安倍晴明が諸国巡視の折、疫病救済のために勧請したと伝えられ、古くは大六王宮と呼ばれていました。

本殿は、嘉永5年（1852）の建立で正面柱間が2間の切妻屋根を持つ建物（身舎）に庇（向拝）がついた三間社流造と呼ばれる様式です。

また、近くには本神社の別当所であった光明山最勝院（現在は廃寺）がありました。久保神社にはおそらく、その両者によって執り行われたと思われる祭礼の絵巻物が残され、久保神社神幸行列の様子を彩色で描いたものと思われます。

卷子装の紙本着色で本紙は

幅298mm、長さ5909mmで、製作されたのは江戸時代後半と推察されています。

絵巻の先頭は猿田彦、続いて20人程の僧侶が読経しながら散華を行って先導し、数人の白丁に担がれた質素な神輿、巫女列、その後方に裝飾された神輿と続きます。いずれの神輿も頂部は鳳凰ではなく、宝珠が据えられています。

さらに、この後方に馬に乗った神主2人が随従し、近在の氏子たちの列と続き、拍子木を持つ人で締めくくられています。

この絵図には、僧侶・神主・巫女・白丁を含む147人と馬5匹、神輿2基が描かれ、完全な神仏混合による祭礼の姿を今に伝えていきます。明治時代初期の廃仏毀釈によって失われた祭礼様式を知ることから平成17年に、本殿と共に市の文化財に指定されました。

問い合わせ

生涯学習課

☎(50)1224